

日本航空株式会社



**FileVolanteを、メインフレームとオープンシステムの
帳票基盤として全社採用しています。旧システムからの
データ移行にはRPAを活用しました**



JAPAN AIRLINES

日本航空株式会社 IT企画本部 IT運営企画部 センター基盤グループ マネジャー 川上 孝男 氏、嶋村 章 氏、および株式会社JALインフォテック エアライン事業本部 システム基盤部 メインフレームグループ 主管エンジニア 豊村 政幸 氏、主任スタッフ 中村 笙子 氏にFileVolanteを導入した経緯とその効果について詳しく聞きました。

日本航空について

日本航空(以下 JAL)は、日本を代表する航空会社の一つです。年商1兆4112億円(連結2019年度)、従業員数35,653人(連結2020年3月時点)。

FileVolanteを全社的に活用

— JALではFileVolanteをどう活用していますか。

JALではFileVolanteを「全社的な電子帳票システム」として活用しています。会計・販売購買系などの一般的な帳票に加え、航空会社特有の整備情報や運航記録など、あらゆる業務データの帳票基盤となっています。概要は次のとおりです。

項目	内容	備考
使用範囲	JAL本社 およびグループ会社	海外拠点を含む
帳票枚数	年間2,900万ページ相当	—
帳票種別	2,500種類	航行、整備、販売など 全業務
帳票の発行元	主にメインフレーム	一部オープンシステム
システム形態	クラウド	クライアント側ブラウザ はChrome限定。 英語OS(海外拠点)でも 活用。

FileVolanteは、PDFベースの電子帳票システムです。JALは現在、メインフレームからオープンシステムへと移行を進める過渡期であり、両方のデータ保管が必要です。FileVolanteは、メインフレームかオープンシステムかを意識せずにデータの検索・参照・活用ができ、大変便利です。

現在JALの業務システムは「メインフレーム1割、オープンシステム9割」という構成ですが、2年後をメドに、メインフレームを撤廃し、すべてをオープン化する予定です。そうなった時でもFileVolanteを「オープンシステム用の電子帳票システム」として使い続けていきます。

JALでは、FileVolanteを導入する以前にも、別の電子帳票システムを使っており、今回は乗り換え導入です。その場合、旧システムからの膨大な量のデータ移行が必要になりますが、データ量が膨大であるため、JFEシステムズに「できるだけ円滑に、低コストで移行したい」と相談したところ、「RPAを使いましょう」と提案がありました。その結果、データ移行は、コスト、期間のいずれも当初想定30分の1でした。また弊社側の人的負担はほぼありませんでした。



「メインフレームとオープンシステム、両方の電子帳票を処理しています」川上 孝男 氏

導入の経緯

— FileVolante導入の経緯を教えてください。

従来の電子帳票システムのサーバが保守期限を迎えることになり、それに合わせ、電子帳票システムも、会社の戦略に合わせて最適の製品を選びなおすのがよい、という結論に到りました。その後、FileVolante、従来システムを含む5製品を比較検討しました。

製品選定の基準

― 各製品をどんな基準(要件)で比較しましたか。

JALグループ全体(含む海外拠点)で使う電子帳票システムを新たに選定するにあたり、求めた要件は次のとおりです。

要件1.「ブラウザベースであること」

JALでは現在、会社全体で「社内システムのブラウザベース化」を推進しており、ブラウザはChromeを指定しています。新たに導入する電子帳票システムには、クライアント管理の負担を軽減できるようブラウザベースであることを求めました。



「Chrome対応を重視しました」
嶋村 章氏

要件2.「海外版OS(英語)でも使えること」

JALは航空会社という業態上、海外にも多くの拠点がおり、電子帳票システムは世界各地で使うことになります。海外で調達されるPCのOSは、英語など海外言語版ですが、新たに導入する電子帳票システムには、そこでも問題なく動作できることを求めました。

要件3.「従来システムと同等(あるいはそれ以上)の基本機能を持つこと」

新たな電子帳票システムでは、ユーザーである現業部門から見て、「以前のシステムで出していた帳票が、同じように出せること」「以前できていたことは、今回もできること」が必要です。新システムには従来と同等(あるいはそれ以上)の基本機能を持つことを求めました。

要件4.「従来システムからのデータ移行が円滑に行えること」

新システムには従来システムで保管していた帳票データをそっくり移行する必要があります。この移行が、現業部門の業務に影響を与えることなく、短期間で円滑に行えることを求めました。

要件5.「PDFベースであること」

PDFは汎用性の高いデータ形式です。新たな電子帳票システムは、これに対応していることを求めました。

要件6.「操作が容易であること」

現業部門が、旧システムから円滑に乗り換えられるよう、操作が簡単であること、旧システムと同等な機能が利用可能であることを求めました。



「データ移行が円滑に進むことを求めました」豊村 政幸氏

要件7.「ログ機能の充実」

誰がいつ、どの帳票にアクセスしたのか、などセキュリティ確保のためのログ情報を容易に検索、取得できることを求めました。

要件8.「実績、価格の合理性」

「メインフレーム」「オープンシステム」「システム移行(データ移行)」の3点について実績と経験があること、そしてトータルの価格が合理的であることを求めました。

以上、8要件を基準に各製品を精査したところ、FileVolanteが要件を最もよく満たしていたので、これを採用しました。その後、設計、構築を経て、2020年7月に本稼働を開始しました。

FileVolanteへの評価

― これまでを振り返ってのFileVolanteおよびJFEシステムズへの評価をお聞かせください。

今回のシステム更新プロジェクトでは、現業部門の仕事に影響を与えないことが重要でした。現業部門から見て、「え、システム移行があったの?」というぐらい、何事もなく静かに移行が終わることが理想です。しかし、旧システムからの移行のような

作業では、「フタを開けてみないと分からない、意外な落とし穴」が生じがちです。今回もLDAPS対応など細かい点で、「突発的な要対応項目」がやはり生じました。

しかしJFEシステムズは、それまで蓄積された経験や知見を生かし、常に落ち着いた確に解決してくれました。特にRPAの活用が有効でした。JFEシステムズの移行作業は、当初の期待を満たす高品質なものでした。

ユーザーからのアドバイス

― 現在、電子帳票システムの導入(入れ替え)を検討している企業に向け、ユーザーとしてのアドバイスなどあればお聞かせください。

電子帳票システムのような「用途が明確な製品」では、各製品の間で、機能、仕様の際立った違いは生じにくいように感じます。一方、従来システムからの移行作業では、途中、予期しない事態が起こりえます。その突発事態に的確に対応するには、実績、経験、場数が重要になり、この部分は各社間の差が生じます。電子帳票システムを選定する際は、製品の仕様、機能だけでなく、それを提供する企業の移行、運用の実績に着目するのが良いと考えます。



「突発事態への対応力を重視しました」中村 佳子氏

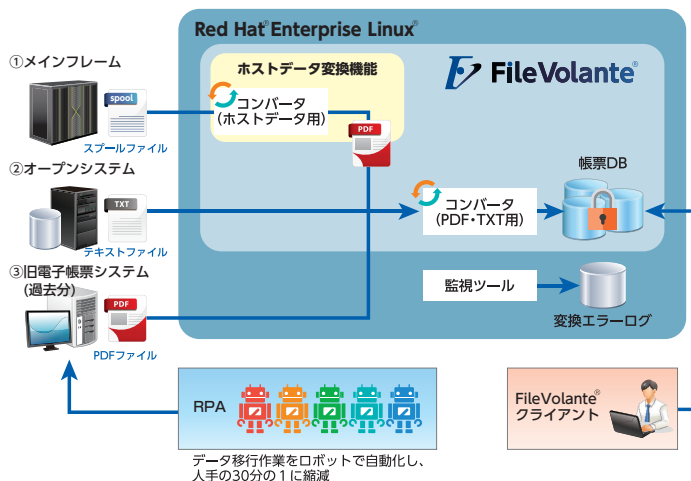
今後の期待

― JFEシステムズへの今後の期待をお聞かせください。

JALは引き続き、お客さまに選ばれる航空会社としてサービス向上、業務効率化に尽力していく所存です。JFEシステムズには、そうした弊社の企業価値向上の取り組みを電子帳票に関する技術、製品、サポートを通じて支援いただくことを希望します。今後ともよろしくお願いします。

お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。

【システム概要図】



※この事例に記述した数字・事実はすべて、事例取材時に発表されていた事実に基づきます。数字の一部は概数、おおよその数で記述しています。



JFE システムズ 株式会社

東日本エリア: 03-5418-2377

〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番3号(シーパンスS館)

西日本エリア: 078-232-5365

〒651-0083 神戸市中央区浜辺通五丁目1番14号(神戸商工貿易センタービル)

E-mail: filevolante@jfe-systems.com https://www.jfe-systems.com/